

飛鳥資料館秋期特別展のご紹介

「まぼろしの唐代精華—黄冶唐三彩窯の考古新発見—」

平成20年10月17日（金）～12月7日（日）

飛鳥資料館では、今秋「まぼろしの唐代精華—黄冶唐三彩窯の考古新発見—」展を中国河南省文物管理局と共同して開催します。

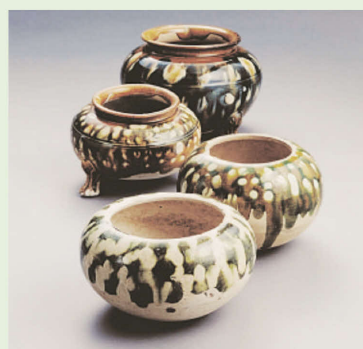
唐墓から出土する華麗な優品で知られる唐三彩。しかし、そこには未解決の問題がたくさん残されています。このため、奈良文化財研究所は2000年度より、総面積約16万㎡という中国屈指の唐三彩窯跡、河南省鞏義黄冶窯を対象とした「鞏義市黄冶唐三彩窯及び産品に関する共同研究」を中国の河南省文物考古研究所と進めています。この共同研究は、まだまだ謎の多い唐三彩の歴史、生産技術、流通、使用、さらには最近注目されるようになってきた唐代の青花瓷器の実態などを解明する上で不可欠なものとの評価を受け、国内外の研究者から熱い視線が投げかけられています。今回の展覧会は、その注目の国際共同研究の最新成果を皆様に広くわかりやすく公開するものです。

さて、今回の展示の見どころは、なんと

も唐三彩をはじめとする黄冶窯産の各種瓷器です。また、通常の唐三彩の展覧会では展示しないような三彩未成品や各種の窯道具も陳列します。さらに、黄冶窯にほど近い鞏義北窑湾唐墓群から出土した各種瓷器類の優品も目を引きま

す。出土した地点や遺構、層位が明確な、これら94点にもものぼる資料を展示することで、唐三彩を含む黄冶窯産の瓷器類の実態や時間的な変化を具体的に示します。このほか、日本国内出土の唐三彩も展示し、唐境外での唐三彩のひろがりについて考察します。

秋たけなわの飛鳥にお越しになっていただき、唐代文化の精華というべき唐三彩を堪能していただければ幸いです。（飛鳥資料館 加藤 真二）



展示品の一部（黄冶窯出土唐三彩）